

## 会 員 募 集

会員を募集しています。わたしたちの活動をご理解していただき、ご協力できるかた、ごいっしょにアジアでのボランティアを始めませんか。

(1) 入会金	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	なし	団体活動会員	3万円
	賛助会員	なし	団体賛助会員	なし
(2) 年会費	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	5千円	団体活動会員	3万円
	賛助会員	1口5千円	団体賛助会員	1口5千円

### 振り込み先

特定非営利活動法人T・M良薬センター  
群馬銀行本店 普通口座 2134150  
郵便局 00160-5-591781

特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局  
〒371-0852  
群馬県前橋市総社町総社1024  
(Tel&Fax) 027-254-2325  
(E-mail) office@tmrc.jp  
(HP) www.tmrc.jp



# ロンボークラブ

# 5



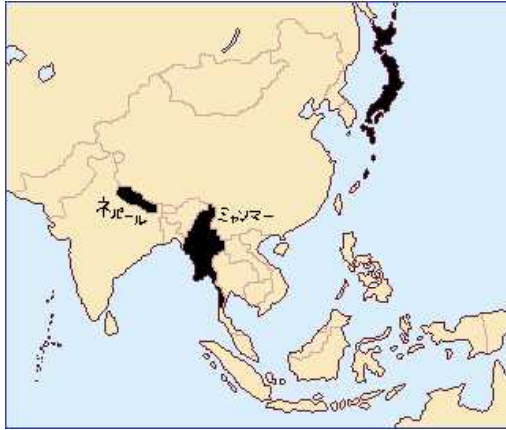
T・M良薬センター ニュースレター

ミャンマー・ネパール訪問使節 特集



ニュースレター第5号  
平成16年9月1日  
T・M良薬センター事務局  
Tel・Fax : 027-254-2325  
E-mail : office@tmrc.jp

T・M良薬センター（TMRC）はミャンマー・ネパール訪問使節団を結成、7月4日から10日まで両国を訪問しました。群馬県藤岡南ロータリークラブとの合同視察となったミャンマーでは社会福祉省管轄盲学校でリハビリセンターに関する話しを進め、ネパール・パタンでは伝統文字学塾リピタプグティと接触し、釈迦族との交流を深め、それぞれの事業に向け大きな成果を上げました。



## 前半

経路地タイ・バンコクで一泊したTMRC一行は一路ミャンマーへ。しかし、モチベーションが高まる一行にいきなりハプニング発生！ヤンゴン空港上空で着陸態勢に入った飛行機が再び浮上、それを何度か繰り返した後、結局バンコクへとんぼ返りしてしまいました。機長は悪天候のためだと説明するがヤンゴンの地上が見えたと話す窓際の客もいたそうです。

予定より5時間遅れで到着したヤンゴン国際空港にはアウンウィンタン所長が待っていました。入国審査のため列に並んでいるとタン所長が入ってきて一行のパスポートを回収し、そのまま一列に中まで案内してくれました。これには驚きましたが、さらに荷物をもって税関も顔パス。



空港を出ると一行はバスに乗ってすぐ盲学校に直行しました。バスガイドはタン所長の奥様メイさんです。盲学校に着くとウ・マンミン社会福祉省副局長を始め学校関係者が一行を出迎えてくれました。パラ輪を受け取って体育館へ上がるとステージに生徒さん達がライブの準備をして待っていました。歓迎会を催して

頂いたのです。

7月8日、一行は昨年11月に誕生佛の落慶を迎えたタウケル寺へ表敬訪問に訪れました。パタンよりバスで30分。以前より支援を続けていますが、副理事長始めほとんどのメンバーが初訪問になります。本堂にて法味を言上しアジア・ネパール仏教の発展と道中安全を祈念しました。住職のガンカージ・釈迦上人は一行の訪問に喜び、挨拶をし感謝の言葉を述べました。双方紹介した後、いくつかのアルバム（お上人とお寺の歴史が詰まっている）とチャイを囲んで、穏やかな歓談が続きしました。最後に一人ずつ袈裟とお土産を頂きパタンに向かいました。



## 仏舍利を拝見する小川事務長

その日の夜リピタプグティの授業風景を見学に行きました。やはりレンガ作りのビルに入り、ラジバイ所長を先頭に細くて暗い階段を上ると、灯りのついた一室に所狭しと受講生が床に座り込み皆一所懸命黒板の



文字を写しています。その手にはTMRCの支援により完成された教科書がしっかりと開かれていました。現在のクラスは、子供から大人まで約30名が習いに来ているようです。講師はボランティアで教えているため、自分の仕事が終わった後、それぞれ率先して授業しています。田代副理事長が、このように勉強している姿を見られて大変喜ばしいと挨拶をし、メンバーが各自自己紹介をしましたが、生徒の皆さんはそっちのけで文字を書き取っていました。宿題に残さないようにと必死になっているのでしょうか。一行は講師と生徒達の真摯な姿を見て感動し、お礼を述べて外に出ました。カドムラル理事長を初め関係者の見送りを受け、宿舎に戻りました。

9日カトマンズ・タメル地区の市場に寄った後空港に向かいました。いつかミャンマーに初めて行った時と同様、経路地バンコク空港内のタイ料理レストランで打ち上げの乾杯をして、全員無事帰国いたしました。

された現在、さらなる発展のために伝統文字のフォントを作成したいと希望しました。今までは教科書を作るにも、発行物を作るにも手作業で行われてきた時間と手間が大幅に短縮され今後のリピタグティの活動に必要であると表明するのです。作成にかかる費用は約50万円。ボランティアで活動している同団体の資金は乏しく、高額なため日本からの援助を依頼しました。田代副理事長は、全額支援できるかは分からないが、帰国後、会で検討し出来る限りの援助をしたいと話しました。チャイと甘菓子頂き、カドムラル理事長と田代副理事長が握手を交わし、今後とも双方の友好関係を誓いました。



午後6時、一行は場所を移しリピタグティ主催の歓迎会に出席しました。そこはレンガ作りの大きな倉庫のようで、幕が引かれたステージと、100席以上の観客席が用意されていて、一行はその最前列に案内されました。すると次々とパタンの住人が会場に集まってきます。子供から年寄りまで会場に入りきれず道にあふれ出ています。満を持してラジバイ所長の司会により幕は下ろされました。ステージの奥には大きくTMRCを歓迎する手作りのまくが垂

れています。大歓声の中、次から次へと繰り広げられるネパールの伝統舞踊は、物語風に構成されていて民族衣装に身を包んだ出演者が昔から語り継がれる物語を踊ったり歌ったりして表現しているようです。



この土地で客を振る舞う時の必需品、地酒の“エツラ”と半熟の卵、魚の薫製をご馳走になった後、一人一人感謝の言葉の入った盾を頂きました。その夜はリピタグティとパタンの人々と親交を深めました。

1914年8月に開講したこの盲学校では、6歳から18歳までの盲人と精神病患者が自力で社会復帰出来るように、編み物、マッサージ、コンピュータ、楽器、木工など多数のコースで指導しています。現在56名在学、それぞれ希望のコースを選び一生懸命学んでいます。

学校の紹介を聞いたあとと質疑応答となり、TMRC一行はマッサージコースについて話を聞くことが出来ました。同学校では以前、日本から4名の先生が来て生徒達にマッサージを教えたことがあるようです。その時技術を習った生徒が、現在マッサージコースの先生として教えているのです。いざ社会に出ると1時間約5ドルでマッサージが行われているようです。また、現在ミャンマー国内にはマッサージの公式資格は無く、必要もないようです。



話が一段落すると同学校生徒達によるライブが始まりました。次々と繰り広げられる演奏の数々は、健常者と比べ大変な努力をしてきたことが想像でき、一行は感動しました。低学年から高学年とヴォーカルが交代していき最後には日本の歌「すきやき」でしめてくれました。

”上を向いて歩こうよ！”

田代副理事長が代表してお礼の挨拶を述べ、ウ・マンミン氏に日本から整体師を派遣して盲学校生徒を指導しつつ、半永久的に講習が行われるように次世代の整体師を養成するという、TMRC整体師養成プログラムの提案をしました。そして小川光星整体師が実際にウ・マンミン氏に整体を行い、体験して頂きました。手のしびれを訴えていた氏は体中に血が巡るようで体が温まると、驚きの表情で大変興味を示しました。そして、ぜひ同学校のマッサージコースの講師達に整体を教えて頂きたいと話しました。





このジ・ミンダイ盲学校はヤンゴン国際空港から車で約30分の市内中心部にありその緑に取りに囲まれた白い建物に入れば外の喧噪は嘘のようで南国のリゾート地にいる気分です。

その一角に[JAPANESE MYANMAR PROFESSIONAL MASSAGE ROOM]と部屋が設けられていて日々マッサージの授業が開かれています。

ウ・マンミン氏はこのスペースを整体研究室として、現在のマッサージコースの先生達に整体を講習してほしいと希望しました。

T M R C 一行はもう一度日本で検討する旨を伝え盲学校を後にしました。



## ホットニュース

T M R C を窓口に、ミャンマーのサッカー少年達へボールを寄贈した藤岡南ロータリークラブ(RC)は7月6日朝、タン所長の案内でスポーツ省の高官とミャンマー国青年オリンピックチームの練習を見学した。



翌7日の夜、スポーツ省大臣と観光省大臣列席の会食の席では、緬甸国際サッカー大会の話がされ、ドゥラエイミススポーツ大臣より井戸を掘って欲しいとの依頼があった。同RCは日本で井戸工事費用3万円の寄付を募る予定。また、同大臣は会に同席した小川光星氏の施術により整体に関心を持ち、サッカーチームのトレーナー達に整体を教えることに強く要望した。

## 後半

T M R C 一行はミャンマーからバンコクを経由して一路ネパールへ。四方を山脈に囲まれたカトマンズ空港に降り立つと、その景色はまるで群馬県の山々を望んでいるようで懐かしい気分がしました。一つ一つ手作業でパスポートチェックをする入国審査は国柄が出ているのか、とてもゆっくりしたものでした。一行全員が心配するほど待たされた荷物も無事出てきて、外へ向かうとラジバイ・シャカT M R Cネパール事務所長が迎えに着ていました。簡単に紹介を済ませホテルに行こうとするとバスがありません。ラジバイさんは言います、「イラク戦争が始まってからチェックが厳しくなり、パスポートが無いと空港の中まで車を持ってこられないんです。」T M R Cのメンバーが車を取りに同行すると、確かに空港へ続く一本道にバリケードが張ってあり軍人の検査を受けるため車の長蛇の列ができています。外務省が発表している“超危険区域”を少し実感しました。

ホテルヒマラヤに向かう車窓に一行は珍しいものを見ました。道の真ん中に寝そべる“ノラ牛”です。ヒンドゥー教国家のネパールでは皆神聖な牛を避けて通るため牛はのびのびと昼寝をしています。



ホテルでしばし休息した後、一行はカトマンズ市内から南へ車で約30分、レンガ造りの古都、ポカラにある「リピタプグティ(文字上達塾)」へ向かいました。午後4時到着。同塾は寺院の一角に事務所を構えているため寺院の入り口でカドムラル・マハラジャ理事長を始め、リピタプグティの役員が出迎えます。



ネパールで最高の送迎方法であるという花輪と袈裟をカドムラル理事長から一人一人受け取った一行はリピタプグティと会談しました。ラジバイ所長により双方メンバーが紹介されると、カドムラル所長が挨拶をし、T M R Cの支援により無事教科書が発行され現在授業で重宝されていると感謝の辞を述べました。

田代副理事長は、日本で呼びかけた援助によりネパールの文字と仏教文化が受け継がれていることは素晴らしく同じ仏教徒として大変嬉しく思うと話し、約一時間半の間、先方からの現況報告や今後の展望など終始穏やかな雰囲気では会談は進みました。リピタプグティは教科書が作成